

# ESG・SDGsを踏まえたCSR活動における取組み重点テーマ

ほくほくフィナンシャルグループでは、サステナビリティの視点を踏まえた経営を促進するための方針や計画、目標や体制などを協議するとともに、リスク管理についても強化していくことを目的として、当社内にサステナビリティ推進委員会を設置しています。

サステナビリティ推進委員会は、1年に2回の定期開催を実施し、基本方針や戦略・リスク管理に関する事項等の協議や当社グループの重点テーマに沿った取組状況の確認を行い、グループのサステナビリティ経営における重要な事項については経営会議を経て取締役会に報告するものとしています。

経営理念	重点テーマ
地域共栄	<b>持続可能な地域社会の実現</b> <span>E S G</span> SDGsやESG等の課題を踏まえた建設的対話の促進等による地域金融機関としての責任ある投融資への取組みやスタートアップ企業や地域における成長企業への積極的な支援を通じた安定的な雇用創出への取組み、各種自治体やお客さまとの連携の促進により持続可能な地域社会の実現に貢献する
	<b>再生可能エネルギーの利用促進、温室効果ガス排出量の削減等環境負荷の低減に努める</b> <span>7 13</span> 再生可能エネルギーの利用促進、温室効果ガス排出量の削減等環境負荷の低減に努める
	<b>地域における金融リテラシーの向上</b> <span>S</span> 金融経済教育や金融コンサルティングによりお客さまや子供たちの金融リテラシー向上に取組み、将来に向けた資産形成や円滑な事業・資産承継を支援する
公正堅実	<b>健全で強靱な経営基盤の構築</b> <span>G</span> ステークホルダーとの対話促進により透明性を高め、ガバナンスの高度化や各種リスク管理の徹底、更なるコンプライアンスの強化により強靱な経営基盤を構築する
	<b>すべてのお客さまにとっての利便性の向上</b> <span>S</span> 先進的ですべてのお客さまがアクセスしやすく安心して利用できる金融商品・サービスの提供を通じて、更なる利便性の向上に努める
進取創造	<b>生産性向上につながる職場づくり</b> <span>S</span> 多様な人材の活躍推進や育児・介護等の両立支援等の働き方改革推進、将来を担う人材の育成を通じ、動きがよい・やりがいを有する職場づくりに取組む
	<b>進取創造</b> <span>S</span> 先進的ですべてのお客さまがアクセスしやすく安心して利用できる金融商品・サービスの提供を通じて、更なる利便性の向上に努める

## ほくほくフィナンシャルグループSDGs宣言

ほくほくフィナンシャルグループは、「地域共栄」「公正堅実」「進取創造」の経営理念のもと、国際連合が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)の視点を踏まえたCSR活動に積極的に取組むことにより、地域経済、地域社会のSustainability(持続可能性)の向上を目指してまいります。



2021年度取組みトピックス
<b>ほくほくサステナブルファイナンスの取扱開始</b> サステナブルな取組みを積極的にサポートするため、2021年9月よりほくほくサステナブルファイナンス「サステナビリティ・リンク・ローン型」「グリーンローン型」の取り扱いを、2022年4月より「SDGs定型目標型:ほくほくThree Targets」の取り扱いを開始しました。
<b>カーボンニュートラルガスおよびグリーン電力の導入</b> CO <sub>2</sub> 排出量削減目標▲46%(2013年度比)の早期達成に向けて、2021年12月よりCO <sub>2</sub> 排出量実質ゼロの「カーボンニュートラル都市ガス」を北陸三県で初めて導入しました。また、2022年4月、北陸銀行と北海道銀行の東京支店では金沢大学と協調して、RE100等のグローバル基準に適合するグリーン電力を導入しました。
<b>成年年齢引き下げ、高校指導要領改訂を踏まえた出前授業の展開</b> 2022年4月より、成年年齢が18歳に引き下げられ、高校の新学習指導要領で金融商品について学ぶことが明記されるなど、金融教育の重要性がますます高まっている中、北陸銀行、北海道銀行、ほくほくTT証券の3社が連携して、高校生向けの新しい教材を作成し、出前授業を積極的に展開しています。
<b>地銀共同センター・MEJARシステムワーキンググループの発足</b> 2021年11月、DXの加速、コロナ禍による非対面取引へのシフトなど地方銀行を取り巻く環境が大きく変化する中、アプリケーションの相互利用やシステムコストの低減などを進めるため、地方銀行16行およびNTTデータとともに共同化グループの枠組みを越えたシステム運用の効率化を検討する「地銀共同センター・MEJARシステム・ワーキンググループ」を立ち上げました。
<b>法人版電子交付サービスおよびビジネスポータル取扱開始</b> お客さまの更なる利便性と満足度の向上に向け、北陸銀行は2020年10月、北海道銀行は2022年4月より、書面でお届けしていた一部帳票についてインターネットより無料でご覧いただける「法人版電子交付サービス」および預金、為替取引に加え、書面交付のペーパーレス化や融資等の各種サービスのお申し込みやご相談等がWEB上で可能となる「ビジネスポータル」の取り扱いを開始しました。
<b>「ほくほく札幌ビル」の着工</b> 2021年11月、北陸銀行札幌支店跡地にて「ほくほく札幌ビル」の起工式を行いました。2024年1月竣工予定の新ビルは、フロアに設置する壁をできるだけ減らし、技術の進歩に応じて柔軟に職場環境を整備するなど、職員の多様なワークスタイルに対応することで更なる生産性向上を図るとともに、レジリエンス強化に向けたBCP対応および省エネ設備導入による環境配慮への対応にも優れた拠点を目指しています。

# 気候変動への対応

## 環境方針

ほくほくフィナンシャルグループは、2021年2月に制定した環境方針のもと、自社のカーボンニュートラルに積極的に取り組んでいくとともに、脱炭素社会の実現に向けたお客さま・地域の取組みを支援してまいります。

ほくほくフィナンシャルグループは、経営理念のひとつである「地域共栄」の実現に向け、営業活動を含む自らの企業活動において環境への配慮に努めてまいります。

1. 環境保全に関する法規等を遵守します。
2. 金融商品やサービスの提供を通じて、環境問題に取り組むお客さまへの支援を積極的に行います。
3. 企業活動全般において、省資源、省エネルギー、リサイクル活動を推進し、環境負荷の低減に努めます。
4. 企業活動が環境に与える影響を定期的に検証するとともに、積極的な情報開示に努めます。
5. 地域社会と積極的に連携し、環境保全活動を推進します。
6. 本方針は、グループ内の全従業員に周知するとともに、対外的にも公表します。

また、国際機関、政府、地方政府、企業、業界団体等と連携することが重要であると考え、イニシアティブへの参画を進めています。



## TCFD提言に基づく開示

ほくほくフィナンシャルグループは、「SDGs宣言」表明とともに制定した「CSR活動における取組重点テーマ」において「持続可能な地域社会の実現」に向けた気候変動への対応をマテリアリティの一つとして特定しており、2021年2月にTCFDが策定した提言に賛同しております。TCFDが開示を推奨する、気候変動に関するリスクおよび機会に係る「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」に沿った情報開示を進めています。

### ガバナンス

気候関連のリスクと機会に関する組織のガバナンスを開示する

- 取締役会を中心とした監督・執行のガバナンス態勢を構築
  - ◀監督>: 取締役において、執行での議論を経て報告・付議された内容について監督
  - ◀執行>: 代表取締役社長が議長を務める経営会議および代表取締役社長が委員長を務めるサステナビリティ推進委員会(2021年11月新設)等において定期的に審議・議論を行い取締役会へ報告。
- 企業活動において環境配慮を実践していくため「環境方針」を制定し、取締役会で決議(2021年2月制定)
- 組織横断のサステナビリティ推進チームを設置し、推進体制を強化(2021年11月新設)

### 戦略

気候関連のリスクと機会が組織の事業、戦略、財務計画に及ぼす実際の影響と潜在的な影響について、その情報が重要(マテリアル)な場合、開示する

### 機会

- お客さまによる脱炭素に向けたビジネスモデル構築や技術開発に向けた投資をビジネスの機会と認識
- お客さまの脱炭素化や気候変動対応への支援を積極的に実施するため、多様なパートナーとの連携を強化し新たなソリューションを開発・提供

主なソリューションメニュー	内容
ほくほくサステナブルファイナンス「SLL型」	国際資本市場協会(ICMA)等が公表している各種基準に準拠していることについて、外部機関の評価を取得することを前提に、お客さまのサステナブル経営戦略と整合した取組目標を設定し、取組目標の達成状況に応じて適用金利等が変動する融資
ほくほくサステナブルファイナンス「GL型」	国際資本市場協会(ICMA)等が公表している各種基準に準拠していることについて、外部機関の評価を取得することを前提に、資金使途を環境改善に資する事業やプロジェクトに限定する融資
ほくほくサステナブルファイナンス「SDGs定型目標型: ほくほくThree Targets」	幅広い企業にサステナブル経営に取り組んでいただくため「裾野広く簡単」をコンセプトに当社独自で設計。お客さまに予め選択いただく3つの目標の達成を通じて、企業価値の向上と持続可能な地域社会の実現を目指す融資
GHG 排出量算定・可視化クラウドサービス(ビジネスマッチング契約先: 株式会社ゼロボード)	企業活動によって排出されたCO <sub>2</sub> を代表とするGHG排出量を、国際基準であるGHGプロトコルに基づいて算定・可視化ができるクラウドサービス
CO <sub>2</sub> 排出量見える化クラウドサービス(ビジネスマッチング先: アスエネ株式会社)	温室効果ガス・CO <sub>2</sub> 排出量の算出・可視化、削減・カーボンオフセット、Scope1-3のサプライチェーン全体の報告・情報開示の支援サービス
FIT非化石証書の取次サービス(入札手続代行)(ビジネスマッチング先: 北酸株式会社)	非化石電源由来の電気において分離され、証書化された「非化石の価値」を取得することのできるサービス

## リスク

- 気候関連リスクとして気候変動に起因する移行リスクと物理的リスクを認識

移行リスク	気候変動に関連する炭素税や燃料規制などの政策強化や技術革新への転換の遅れにより、与信先の事業や財務状況にネガティブな影響を及ぼすことによる信用リスクを想定
物理的リスク	台風、豪雨、洪水など異常気象による、顧客資産(不動産担保等)の毀損および事業停滞による信用リスクを想定

## シナリオ分析

リスクの種類	移行リスク	物理的リスク(急性リスク)
シナリオ	IEA(注1)のNZE2050シナリオ/SDSシナリオ/STEPSシナリオ	IPCC(注2)のRCP8.5(4℃シナリオ)
分析方法	分析セクターに属する取引先企業が直面する、リスクと機会の影響評価のためのパラメーターを特定。シナリオ下におけるパラメータ変化を基に取引先企業の業績影響の予想を作成することにより当社グループの与信コストの変化を分析	水害に伴う影響を算出。直接影響(資産価値影響)では、担保不動産の損傷による与信コスト、間接影響(事業停滞影響)では被災に起因した企業の事業停滞による与信コストを分析
分析対象	「電力」「不動産」	北陸銀行および北海道銀行へ不動産担保を提供している先
与信コスト	2050年までに最大151億円	2050年までに最大約71億円

注1: International Energy Agencyの略。国際エネルギー機関。

注2: Intergovernment Panel on Climate Changeの略。気候変動に関する政府間パネル。

## リスク管理

組織がどのように気候関連リスクを特定し、評価し、マネジメントするのかを開示する

- 気候変動に起因する移行リスクや物理的リスクを認識し、取締役会で決議を行うリスク管理方針に当リスクへの対応を明記し、統合的リスク管理の枠組みでマネジメントする態勢を構築
- 「特定事業等にかかる投融资ポリシー」(2021年7月制定)に基づき、環境・社会にネガティブなインパクトを与える可能性が高い事業やセクターである石炭火力発電、兵器製造、パーム油農園開発、森林伐採事業者であるお客さまとのエンゲージメントを強化
- 炭素関連セクターについて、エンゲージメントを強化し、脱炭素社会への移行に向けた対応支援を積極的に行う

## 指標・目標

その情報が重要(マテリアル)な場合、気候関連のリスクと機会を評価し、マネジメントするために使用される測定基準(指標)とターゲットを開示する

モニタリング指標	目標	直近実績
Scope1、2の排出量(注1)	2030年度2013年度比46%削減 2050年度カーボンニュートラル	2021年度 ▲39.1%削減 Scope1 4,869t-CO <sub>2</sub> Scope2 13,620t-CO <sub>2</sub>
サステナブル関連投融资(注2)	2021~2030年度累計 1.5兆円	2021年度 1,026億円
環境関連ファイナンス(注3)	2021~2030年度累計 7,000億円	2021年度 371億円
炭素関連資産(注4)	—	2021年度 1.11%

注1: 北陸銀行および北海道銀行の国内事業所におけるCO<sub>2</sub>排出量(調整後)の削減目標

注2: SDGs 達成に向けて取組む取引先への投融资および医療、保健、教育、漁業、農業、創業、事業承継、レジリエンス、環境関連等への投融资

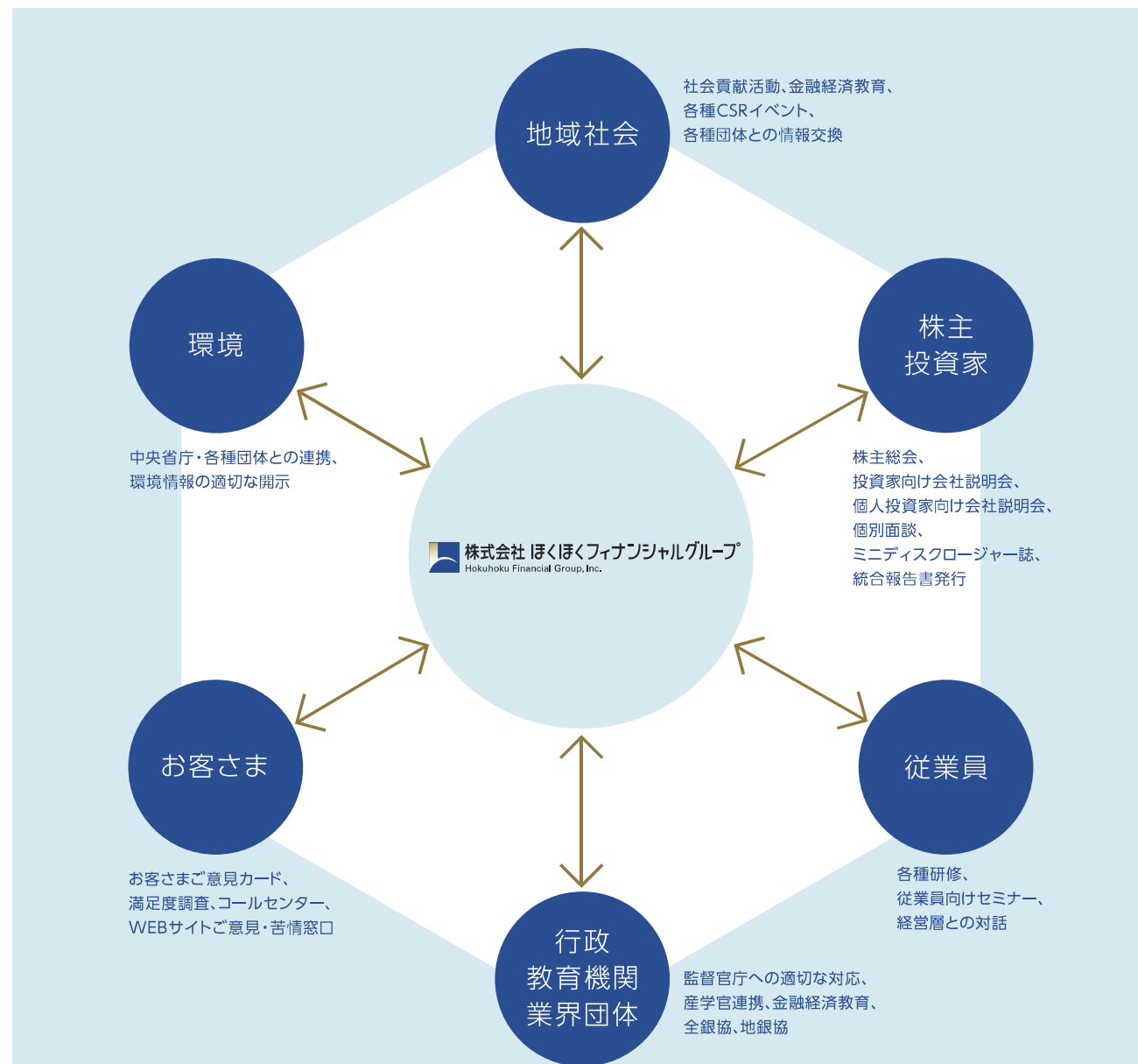
注3: 気候変動対応など環境に配慮した取組みを支援する投融资

注4: 北陸銀行および北海道銀行における炭素関連資産(エネルギーセクターおよびユーティリティセクター向け。ただし、水道事業、再生可能エネルギー事業を除く)の貸出金に占める割合

# ステークホルダーコミュニケーション

## ステークホルダーとのかかわり

ほくほくフィナンシャルグループでは「お客さま」「環境」「地域社会」「株主・投資家」「従業員」「行政・教育機関・業界団体」といった様々なステークホルダーの皆様とのかかわりを通じて、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでまいります。



### ほくほくフィナンシャルグループ ディスクロージャー・ポリシー

#### 基本方針

株式会社ほくほくフィナンシャルグループ(以下、「当社」とする)および当社子会社、関連会社は、「広域地域金融グループとしてのネットワークと総合的な金融サービス機能を活用して、地域とお客さまの繁栄に貢献し、ともに発展しつづけます」という経営理念のもと、株主・投資家、お客さま、地域社会、従業員等あらゆるステークホルダーに対し、積極的な情報開示を行います。また、様々なコミュニケーション活動を通じてステークホルダーとの建設的な対話を行い、企業の透明性を一層高め、ステークホルダーとの信頼関係を維持・発展させていきます。

## 株主・投資家

ほくほくフィナンシャルグループでは、株主・投資家の皆様との対話の場を重視しております。2021年度は、5月に機関投資家向け会社説明会を電話会議形式で、6月に個人投資家向け会社説明会をWEB形式にて開催し、当社グループの概要、業績および戦略等についてご説明をさせていただきました。11月には、コロナ感染症対策を行いながら集合形式にて実施しております。なお、2022年5月に機関投資家向け会社説明会を電話会議形式で、同月に個人投資家向け会社説明会をWEB形式にて開催しています。



## 環境

北陸銀行および北海道銀行は、当社グループの気候変動に関する取組姿勢と経済産業省が公表したGXリーグの趣旨が合致していると考え「GXリーグ基本構想」に賛同しました。本リーグを通じ、様々なステークホルダーと協働しながら、地域のカーボンニュートラルの実現に挑戦してまいります。



## 地域社会

北海道銀行は2021年12月「北海道銀行女子カーリング部」を設立し、チーム活動を開始しました。2022年5月には多くの皆さまから応援いただけるようチーム愛称「Lilers(リラーズ)」およびロゴマークを制定しました。カーリング普及活動を通じて、地域活性化に貢献してまいります。



## 行政・教育機関・業界団体

北陸銀行および北海道銀行は、行政や教育機関、各種団体との連携を通じてコミュニケーションの強化を図り、地域のニーズと研究シーズとのマッチングや地域の金融リテラシーやSDGsリテラシーの向上に向けた教育を積極的に推進しております。2021年度末においては、48の自治体と協力関係を構築しております。



## お客さま

北陸銀行および北海道銀行は、お客さまの声に真摯に耳を傾け、より良いサービスのご提供・商品のご案内に役立てるため、資産運用のお取引をいただいているお客さまへのアンケート調査を実施しております。アンケートについては、お客さまが企業のブランドや商品・担当者に高い関心を持ち、「知人やご家族にどの位勧めたいと思うか」を数字に表したNPS®(Net Promoter Score®)を活用しております。2021年度も2019・2020年度に引き続き、2行ともに本アンケートに参加した地方銀行50行の平均を上回る評価をいただきました。

## 従業員

北海道銀行は、70周年を機に行員と経営陣が直接対話する「Doトーク」を開催しております。「働きがい」や「仕事への想い」、「本部施策」などをテーマに、自由闊達に意見交換を行うことでコロナ禍においても行内のコミュニケーションを活性化させています。引き続きオンライン等を活用し、ニューノーマルにおける従業員との対話促進を図ってまいります。

